活動レポート

吉沢（きさわ）の池周辺水域での生き物調査

- 日時　2023 年 9 月 24 日（日）　9:00〜11:40
- 場所　平塚市吉沢
- 天候　晴れ
- 気温　21℃、水温　19.7℃（上流側）
- 参加者　7 名（神奈川県　環境化学センター職員を含む）

魚類：トウヨシノボリ、ホトケドジョウ、アブラハヤ、ブルーギル

エビ・カニの仲間：アメリカザリガニ、ヌマエビ、カワリヌマエビ、トゲナシヌマエビ、サワガニ

トンボのヤゴ：サナエトンボ、シオカラトンボまたはオオシオカラトンボ、など

その他：カワニナ

吉沢の池は平塚西部丘陵の北東側、平塚市吉沢公民館から南西に直線で 500 メートルほどのところにあります。

うっそうとした木々に囲まれています。池のすぐ横には平塚市の保全樹木のくすのきがあります。くすのきは株立状に生えていて、圧巻の迫力です。

池は全体的に濁った感じですが、流入する水も流出する水もきれいです。

吉沢の池全景

吉沢の池の由来を説明する看板

池の工事に関する石碑

平塚市保全樹木のくすのき

足元には小さな祠がありました

林道にはこんな看板もありました。

池の上流側での調査の様子

朝９時に集合し、池の上流側と下流側に分かれて調査開始。

ヨシノボリやアブラハヤを次々と捕まえられた。

キツリフネが咲いていました。

池の周りにはぬた場や足跡、餌を撮るために掘り返した後などイノシシの痕跡がたくさんありました。

イノシシのぬた場

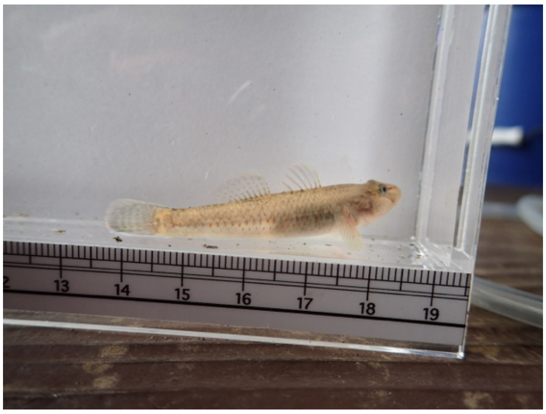
イノシシの足跡

霧降りの滝

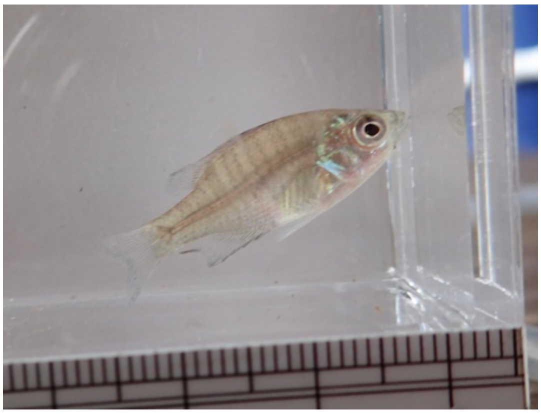
調査は吉沢の池に流入するところから上流に向かながら実施しました。途中、谷筋沿いに登らないところがあるため、何度か林道に戻りながら霧降りの滝まで行いました。最近の豪雨のせいか、林の管理が間に合っていないのか、林道や谷を覆うように倒れている木がたくさんありました。

約１時間の捕獲作業を終えて、吉沢の池の横にある東屋に戻り、種類ごとのカウント開始。生き物の同定は神奈川県環境科学センターの方が行いました。

生き物の同定作業の様子



たくさん確認されたトウヨシノボリ



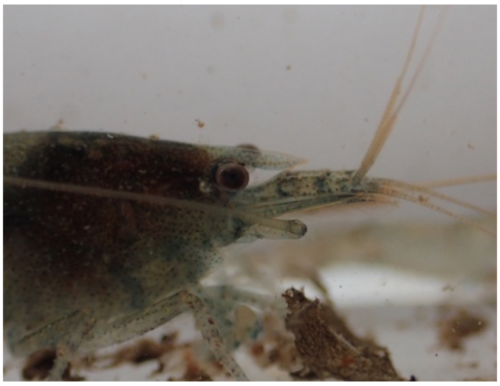
魚ではトウヨシノボリが一番おおく、アブラハヤやホトケドジョウも確認されました。池に流れが注ぎ込むあたりでブルーギルも捕獲されました（駆除しました）。

エビ・カニではカワリヌマエビが多かったですが、ヌマエビやトゲナシヌマエビも確認されました。

捕獲されたブルーギル

ヌマエビ類は額角（両目の間の額に当たる場所のつの上の突起）の長さ、その上部にギザギザの歯の有無と場所、眼窩上棘（がんかじょうきょく）という、目の付け根の上にあ突起の有無などで分類するそうです。難しいです。

トゲナシヌマエビ



額角が短く、歯がない

ヌマエビ

額角が長く、歯が上部全長にわたりある

網で採取した生き物の分類が終わったら、仕掛けを引き上げて、そこに入った生き物の調査を行いました。　仕掛けは池の上流部に 2 か所、流出する側に 2 か所の全部で 4 か所設置されていました。

仕掛けを引き上げている様子

仕掛けに入ったアメリカザリガニ
(大きい！)

捕獲されたアメリカザリガニ

威嚇するアメリカザリガニ

仕掛けの中からは大きなアメリカザリガニがいっぱい出てきました。上流部、流出部とも 58 匹入っていました！それでも、池の中のアメリカザリガニからしたらほんの一部なのでしょう。アメリカザリガニの他にはブルーギルが 4 匹とトウヨシノボリが 1 匹（一部が食われて死んでいました）でした。捕獲したアメリカザリガニとブルーギルは処分されました。

＜感想＞
「吉沢の池はアメリカザリガニしかいないよ」と聞いていましたが、ホトケドジョウやトウヨシノボリなど在来種も多くいたので安心しました。でも、池が濁っているのはアメリカザリガニのせいなのでは、とも思いました。先人が作った農業施設が地域の生物多様性に寄与できるよう、みんなで保全していくことが必要なのではと感じました。